

今回の会議をお願いした趣旨の説明

神戸栄治(国立天文台岡山天体物理観測所
&シンポの世話人)

経緯

- きっかけは岡山観測所所長の異動(積極的人事交流) 2010.1~
- 「5年後以降(京大3.8m望遠鏡完成後)の岡山の方針を決めてから、それに合った人を所長として選びたい」という意向を台長が表明
- 主に拡大企画委員会(09/12/18、10/1/22、3/5)で議論。3/5には台長の第0次案が示された
- その後、運営会議、幹事会、企画委員会等での議論。案に多少の修正が加わった
- 5/20の幹事会で**台長案**が了承。今後、教授会、**コミュニティー等の意見を聴取**した上で、運営会議で方針を決定する予定
(・所長は台内公募され、すでに応募は締め切られている)
- 8/20の光赤外専門委員会では岡山の議論が集中的に行われる

観測所として、光赤外天連シンポジウムで議論をお願いした理由

- 今回の提案は、中小口径望遠鏡での共同利用に大きな変化をもたらす
- これまで広くコミュニティの意見を聞くことなく、ほぼトップダウン式に話が進められている

→ 今回の会議では、まず、台長案に深く絡んでいる、京大3.8m望遠鏡、188cm望遠鏡、大学間連携について、
計画の概要と現状
共同利用“的”利用の必要性の見通し 科学的、教育的、観測装置、、
そのような観測をするための観測システムを実現する見通し
について理解を深め、それらを踏まえた上で、
天文台の方針や各計画の問題点の洗い出し
中小口径望遠鏡の共同利用的運用のあるべき姿の考察
→ 将来の 岡山観測所があるべき姿
を行いたい